

本會評議員・贊助會員

故磯村豊太郎君小傳

君は明治元年十一月七日大分縣中津に生る 夙に笈を負ふて東都に遊學し同藩の先覺 故福澤諭吉翁に私淑し明治二十二年慶應義塾を卒業後一時遞信省に奉職し後慶應義塾に教鞭を取り更に日本銀行員を経て明治二十九年三井物産株式會社に入り同社倫敦支店長より大正二年二月北海道炭礦汽船會社專務取締役役に就任し同四年株式會社日本製鋼所取締役を兼ね爾來累進して北海道炭礦汽船取締役社長兼日本製鋼所取締役會長として克く部下を統率し凡ゆる困難を克服して事業の發展經營の合理化に盡率し何れも今日の隆昌を見るに至れり 且つ其間北海道に於ける鐵道、電力、人造石油等十有七種の事業に社長、取締役、相談役又は顧問として盡力せられたるのみならず屢々政府の開催に係る製鐵鑛業其他經濟、産業、貿易、社會問題に關する二十有九種の調査會委員として活躍せられ又日本工業俱樂部理事長たる外各種社團、財團法人、公益團體の理事、評議員又は顧問として干與せられたるもの實に七十有餘種に及び本會に對しても大正十年以來の評議員として常に重きをなせり

氏は亦各種公共事業に對し多額の私財を寄贈し屢々褒賞を受け昭和四年貴族院議員に勅選せられ又勳功により昭和十三年八月勳三等に敘し瑞寶章を授けらる

氏は天資創造進取の氣魄に富み且つ事に當りて舉措慎重にして常に節度を保持し行くとして可ならざるはなくその社會一般の信頼厚かりしは誠に宜なりと謂つ可し

今や皇國朝野を擧げて東亞聖業の達成に邁進しつつあるに際し君の如き偉材を喪ひたるは洵に國家の一大損失と云ふ可く眞に痛惜に堪えざるなり 氏の訃報天聽に達するや正五位を追贈せらる亦以て余榮ありと云ふ可し

社團法人 日本鐵鋼協會